

経済学演習 I

必修 2単位

郭 四志

1. 授業の概要(ねらい)

院生段階では、国際経済及び中国・新興国経済に関する理論・知識を学ぶと同時に、理論・知識を使い、的確に問題発見、調査・分析及び研究能力を養うことが大切である。前期では、マクロとミクロという両サイドから、常に国際経済・中国をはじめとする新興国経済を分析、研究し、学生たちと一緒に討議しながら、講義を進める。

2. 授業の到達目標

的確に問題発見、調査・研究能力を養う。

3. 成績評価の方法および基準

レポート。

4. 教科書・参考文献

教科書

配布プリントなど。参考文献・参考資料は、授業の第1回目に、紹介する。

5. 準備学修の内容

自分の研究(修論など)を中心に資料収集・調査・研究を進めてほしい。

6. その他履修上の注意事項

マクロとミクロという両サイドから、常に国際経済・新興国経済や産業・企業などの主要問題・動きを把握し、分析すべきである。積極的に発言・討議してほしい。なお、履修する学生は国際経済論特講 I を履修するように。

7. 授業内容

- 【第1回】 前期学習プラン及び院生としての資料収集・調査研究方法及び論文準備・作成の進め方
- 【第2回】 国際経済におけるトピックス
世界を揺るがした金融危機と経済発展及び資源・エネルギーなどの問題
- 【第3回】 国際経済におけるトピックス
高い経済成長をつづけるBRICSとその他の新興国
- 【第4回】 転換期における世界経済(1)
多極化の顕在化
- 【第5回】 転換期における世界経済(2)
ポピュリズムの台頭
- 【第6回】 環境・食料・資源問題
- 【第7回】 国際経済の仕組み
(国際貿易、国際金融取引の変化、直接投資と多国籍企業の展開、アメリカの株式市場の変化)
- 【第8回】 アメリカ経済の現状と行方
- 【第9回】 ヨーロッパ経済の現状
- 【第10回】 BRICSの台頭及びその影響・インパクト
- 【第11回】 「世界工場」と「世界市場」として成長しつつある中国経済の現状と行方
- 【第12回】 中国及びインド工業化の軌跡と経済発展とボトルネック
- 【第13回】 東アジア経済の持続可能な成長
- 【第14回】 オイルマネーと中東経済の発展
- 【第15回】 世界経済の中の中国・新興国経済及び日本経済